



めぐみだよりNo.2

令和2年11月10日(火)

えんそく

「自分たちがお兄さん・お姉さんなんだから、小さい組の子を守るんだ！」と張り切っていました。小さい組の一人ひとりの名前を出しながら行動を予測して、「誰と手をつなごうか」という相談もしました。

「持ち物は自分たちで準備をする」と話していたので、あいうえお表を見たり、平仮名を知っている子に聞いたりしながら、自分たちで“遠足の持ち物メモ”を作り、忘れ物をしないように準備しました。

遠足当日は、山に登ったり、花を見たり、広い芝生でみんなと走ったり、遊具で遊んだり、秋の自然を全身で感じながら楽しんでいました。

「♪えんそくえんそく ランランラン～」と口ずさみながら楽しみにしていた子どもたち。先生や友だちの話をよく聞き、約束を守って行くことが出来ました。普段“出来ないからやりたくない” “怖そうだから嫌だ”と、初めから諦めてしまうはと組さんですが、遠足パワー☺で、アスレチックでは“今日は頑張ってみる！” “怖いけど大丈夫だよ！”と、ターザンロープや幼稚園とは形の違う滑り台など、様々な遊びに挑戦することができました。この経験を機に沢山自信を付けてほしいと思っています。

遊んだ後は、「お腹空いた～」「早くお弁当食べたい」と、待ちに待った芝生の上での昼食。青空の下、みんなで食べたお弁当やおやつは、最高に美味しかったことと思います。この遠足が、子どもたちにとって楽しい思い出の一つになってくれたならば嬉しいです。

うさぎ組さんに手を繋いでもらい、並んで散歩したり・・・“みのりの森”の頂上まで頑張って登ったひよこぐみの子どもたち。頂上手前の“つるの家”に近づくと「動物の匂いがしてきた～」と鼻の利くA君。丹頂鶴を眺められる場所に着いても「どこに（鶴）いるの？」と呟くB君。保育者が「あそこにいるよ」と指を差して教えると「小さい（鶴）だね」とC君。

また、山頂から降りたところにある公園の滑り台に興味をもったのですが、角度が急だったため「ちょっと怖いからやめる」と言ったA君も、保育者と何度か滑ってみると「楽しい」と言いながら、ひとりでも出来る満足を味わえました。公共の遊具での遊び方を学んだり、いろいろな体の動きも楽しみました。



うんどうかい

嬉しい・楽しい・痛い・悔しいなどいろいろな事がありましたが、運動会という一つの目的に向かって、暑い中ほぼ毎日練習に励む姿にとても感動しました。どんどんと「出来るようになった！」ということが増えていき、それが嬉しくて涙を流す子もいました。

練習が終わったら<遊ぼう>ではなく、もっと速くなりたい、出来るようになりたいと、跳び箱や障がい物競走や、リレーのバトンの受け渡しなど個人練習にも取り組み、練習を重ねていくうちに、うさぎぐみ同士の関係も深まっていきました。誰かが練習していれば自然とみんなが集まり、苦手な所は教え合ったり、友だちが出来るようになったらみんなの手を叩いて褒め合い、喜ぶ姿がありました。この支え合う関係性が、より頑張ろうという意識につながっていったのかなと思います。

〈勝負をつける〉という運動会の経験からか、遊びの中でのチーム分けの時にも、自分のチームが勝つために足が速い子を選んだり、障がい物競争が得意な子を選んだり、それぞれの遊びが得意な子と同じチームに誘っている姿もあり、自分たちで遊びを楽しんでいます。遊びや生活の中で、個々の力を認め合い、お互いの考えや感じたことを伝え合い、遊びを進めることが増えてきました。

初めは、「負けるからやりたくない」「つまらなそうだから嫌だ」と、やる気がない様子でしたが、練習していくうちに「楽しいね！」「今日は〇〇君に勝ったよ」「先生競争しよう！」と、見違えるほどに自信たっぷりの表情を見せてくれました。“勝負事には絶対一番になりたい”という負けず嫌いなはと組さん。練習はもちろん本番でも、悔し涙を流す姿が沢山ありました。この“悔しい”という気持ちから立ち直る事が難しい時期ですが、それぞれの思いを大切に、気持ちの切り替えが出来るよう保育をしているところです。

運動会の翌日からは、みんなで“運動会ごっこ”を行いました。うさぎ組が行なったリレーや障害物競走にも、はと組ひよこ組が加わりそれぞれ好きなチームで対戦しました。一対一で競争をすることが好きなはと組は、チームの意味を理解できず、「僕の番の時は、僕が勝ったのに、どうして僕のチームは負けなの…？」と、納得いかないようすが。来年は自分の為だけでなく、仲間を意識しながら競技に挑戦できればなど楽しみにしています。

「運動会ってなに？」から始まったひよこぐみ。運動会に向かっていく園の雰囲気や環境を感じたり、年長児が跳び箱やバトンリレーの練習をしているのを見ると「ぼくも、やってみたい」と興味をもつ子ども達。ある日、年長児のバトンリレーの練習を見ていたA君が「ぼく、青組になって一緒にやりたい」とやる気満々。青色のバトンを保育者と一緒に作って始めました。年長児の中に入ってやるのは少し難しいので保育者と一緒に行いましたが、園庭を何周も走る姿を見て驚きました。

こんなやる気のある子ども達の願いを叶えて、全クラス一緒に玉入れ、綱引き、障害物競走（一本橋、ゴム跳び、ポックリ、太鼓橋にぶら下げたキャンディーをジャンプしてとる）、バトンリレーと“運動会ごっこ”を3日間満喫しました。

運動会ごっこを楽しみながら簡単なルールも少しずつ分かっていく姿に、この時期の成長が見られました。このような経験が来年の運動会に繋がっていったらと思っています。